

5 ジェンダー平等を
実現しよう

17:00-17:15
開会の辞 西尾浩子 (山女文学研究学会代表)

趣旨の挨拶 ベルナド・トマン (山女会・フランス国立日本研究所)

巻首説明 中山信子 (早稲田大学文学部助教授)

2021年

国際女性デー
記念シンポジウム

第一部 [17:15-18:20]

モダンガール、新天地を逸脱した女たち

司会 木村信子 (東京大学人間科学研究会)

1. 草間清雄
1920-30年代の日本の風刺画に見るモダンガール
サンダー・ショール (シラズ大学)
2. 一ツツミミズルと若井カルチャーをめぐってー
新行内美穂 (助産師)

休憩 [18:20-18:30]

第二部 [18:30-20:00]

モダンガール、新天地を切り拓いた女たち

司会 西尾浩子

1. 建築家 早間玲子氏の夢と奮闘
吉川佳英子 (愛知大学)
2. 永瀬清子 女詩人の静かな闘い
志田直子 (フツウイター)
3. イレーヌ・ネトロフスキー
『風船のヴァン』における自我像
藤佳代 (北海道大学大学院文学研究科)

第三部 [20:00-20:30]

登壇者及び参加者との討論会

司会 中山信子

閉会の辞 横沢直子 (フランス研究会)

モダン ガール、 時代を 牽引した 女たち

3月6日 (土)

17:00 - 20:00 30分
zoomによる
オンライン開催
使用言語日本語

シンポジウムの開催の主旨

いつの時代にも、個のジェンダー規範を逸脱した女たちがいた。彼女たちは時に『モダンガール』と呼ばれ、映画や雑誌の対象となり、時に『狂女』と呼ばれ迫害された。また一方でジェンダー規範を逸脱した女たちは、個人としての生き方を追求し、新しい文化を切り拓いた女たちでもあった。

シンポジウムでは、第一のジェンダー規範の近代史的考察の枠組みで『モダン』と置かれた女たち、また文化の要から『狂女』として迫害された女たち、大衆文化の中でどのように表象された女々を考察する。そして20世紀の日本とフランスで個の存在を生きた3人の女性の肖像『ガートル』を通じて、それぞれの時代の抱えた『モダンガール』について、互いの想像力と向きを共有したい。

要事前申し込み <https://www.mfg.jp>



キーワード	女性、ジェンダー、フランス、教育
研究リーダー	基礎教育センター総合教育教室 教授 岩野 佳英子
研究分野	現代フランス文学・文化、ジェンダー理論